

# P・I・A シート

～「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善 実践事例～  
 中学校美術 編 ① 概要

<b>校種・学年</b>	中学校 第2学年	<b>教科等</b>	美術
<b>題材名</b>	「美は語ることなかれ～あなたが思う美しいもの・ことは何?～」		
<b>題材の目標</b>	<p>○ 自分が思う美しいものやことから主題を生み出し、造形的により美しく表現するために創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練る。</p> <p>○ 形や色彩、デジタルペイントの機能や特性及びそれらが感情にもたらす効果や、造形的な特徴を基に、全体のイメージで捉えることを理解する。</p>		
<b>本時のねらい</b>	デジタルペイントの使い方を身に付け、デジタルの特性を生かしながら意図に応じて工夫して表す。		
<b>本時の評価規準</b>	<p>○ デジタルペイントの使い方を身に付け、デジタルの特性を生かしながら意図に応じて工夫して表している。                  【知識・技能】 &lt;作品・ワークシート&gt;</p> <p>○ 美術の創造活動の喜びを味わい、主体的に美しいものやことを表した造形など基に表現の学習活動に取り組もうとしている。                  【主体的に学習に取り組む態度】 &lt;作品・活動の様子&gt;</p>		

## 事例の概要(見どころ)

- ・ 生み出した主題を表現するために、デジタルペイントの機能（トレース、ブラシ等）や、特性（やり直し、修正等）を生かすことができている。
- ・ タブレット端末を効果的に活用（教師資料の閲覧、活動記録の作成、他の生徒の振り返りを見ることができる等）することで、活動時間を確保し、生徒一人一人が主題を造形的に具現化することができる。

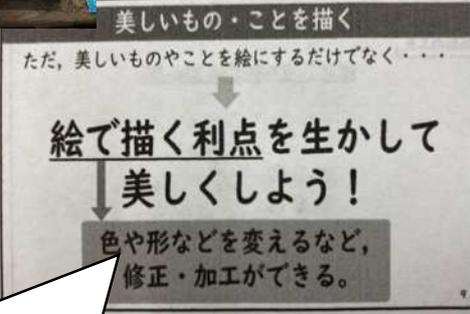
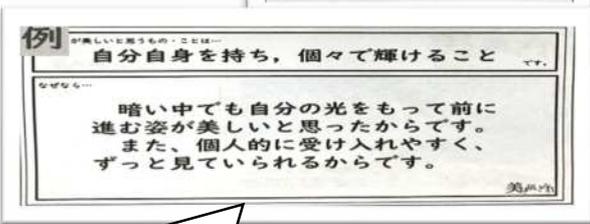
発行：令和5年3月  
 埼玉県教育局南部教育事務所  
<https://www.pref.saitama.lg.jp/soshiki/g2201/index.html>



# P・I・A シート

～「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善 実践事例～  
 中学校美術 編 ② 展開

- 目標 デジタルペイントの使い方を身に付け、デジタルの特性を生かしながら意図に応じて工夫して表す。
- 準備 教科書、タブレット端末
- 展開 (9 / 10)

過程	学習活動 (タブレット端末の活用)	評価 (評価方法)
導入 5分	<p>提案 作品を完成させて、作品の説明をしよう！</p> <p>1 学習の見通しをもつ。</p>  <p>端末の活用①</p>  <p>○「造形的な視点」により、重点を置く部分を明確に示すことで、主体的な活動につながっています。</p> <p>○端末にも格納されており、自分のタイミングで繰り返し確認することができます。</p>	<p>板書とICT(大型モニター)の併用</p>  <p>板書…生徒が持続的に確認・共有するために、本時の課題や、見通しを示している。  <u>みんなで一緒に学んでいるという一体感。</u></p> <p>【授業改善の視点】                      生徒が発揮していた表現方法を見取り、黒板に示すことで、興味や関心がもてない生徒の意欲や態度を高めることが重要です。【主体的な学び】</p> <p>大型モニター…表現形式や技能の例を見せる。                      (教師・生徒の作品、動画等)</p>
展開 40分	<p>2 作品の提出の仕方を知る。</p>  <p>端末の活用②</p>  <p>クラウドを活用した、提出方法を示すことで説明時間を減らし、活動時間を十分に確保することができます。</p>	<p>教師の参考例を大型モニターで示し、教師が説明しながら全体で共有し、確認することができます。</p> 

3 作品の完成に向けて、制作を行う。

端末の活用③



**デジタルペイント機能**（色彩構成やトレース、ブラシ、修正・加工等）の特性を効果的に使っていく。

自分の表したい思いや考えを、デジタルペイント機能を生かして、工夫して表現しています。

4 キャプションを作り、作品に込めた思いや願いを振り返る。

端末の活用④



キャプション作成後、作品の写真を利用し、自分の考えをタッチペンで記入し、端末上で教師に提出する。

他者に具体的に伝えるために、「造形的な視点」で作品を解説しています。

【授業改善の視点】

生徒作品の中から、造形的なよさを見つけ、教師が視点を示すことによって、「共通事項」を指導します。【深い学び】

〔共通事項〕

- ・美しいと感じる形や、形の構成
- ・美しいと感じる色彩（色味や明るさ、鮮やかさ）
- ・画面の余白や空間、量感や動勢の効果
- ・構図の工夫（三分割・対角線・シンメトリー等）
- ・細部と全体の調和
- ・美しい感じる全体のイメージ など

【授業改善の視点】

教師の意図的に発問によって、「造形的な見方・考え方」へと導くことができます。【深い学び】

「ゆさぶる発問」※疑念・混乱を起こすもの。

- ・「どのようにしたらより美しくなるだろう。」
- ・「なぜ、その色は美しいと感じるのだろう。」
- ・「主題を表現するためには、どのような工夫が必要だろう。」

「質問」※作品を見ればわかるもの。

- ・「どこに何色をつけたのですか。」
- ・「より美しくするためにどこを工夫したのですか。」
- ・「新たに気が付いたことは何ですか。」

指導に生かす評価

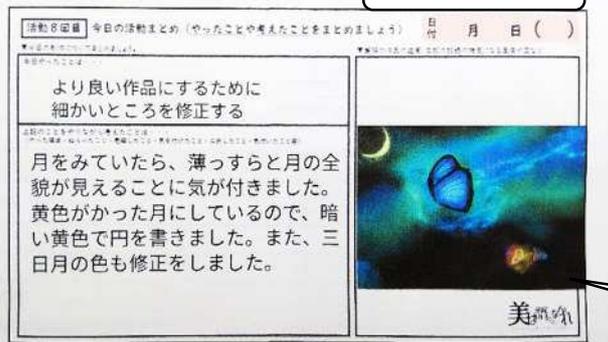
【態表】主体的に制作に取り組み、色彩や形などの効果や全体のイメージで捉えることを理解しようとし、見通しをもち意図に応じてデジタルペイントの特性を生かして表そうとしている態度を見取る。【作品、活動の様子】

まとめ  
5分

5 本時の学習活動を振り返る。

自分の表したいことを具現化するために、デジタルペイント機能の特性をどのように生かし、工夫をしたかという視点で振り返りをさせる。

端末の活用⑤



美しさを表現するために工夫した・気付いたところ等を入力し、端末上で教師に提出する。

【指導改善の視点】

本時の目標に基づいて「振り返り」が行えるよう、時間を確保します。

学習状況を記録に残す評価

【知・技】 作品から、意図に応じて表現方法を創意工夫して表しているかなどを見取る。併せて色彩や形、構図などの効果や全体のイメージで捉えることを理解していることを見取る。【作品・ワークシート】

端末上では、他の生徒の振り返りも参考にすることができるようになっていきます。【対話的な学び】